

小さな赤ちゃんのための 母子手帳を作成へ！

2500グラム未満の「低出生体重児」は、2019年に国内で生まれた赤ちゃん約86万5千人のうち9.4%の約8万1千人。神奈川県でも約6千人で、1500グラム未満の極低出生体重児も約500人誕生しています。

低出生体重児は成長の速度がゆっくりで、通常の母子健康手帳の問いに対し「NO」の答えばかりになり、親が不安で落ち込んでしまうケースも少なくありません。

公明党県議団では、当事者の方々の声を受けて、低出生体重児のための母子手帳『リトルベビーハンドブック』の作成を訴えてきましたが、令和4年度予算に盛り込まれました。

今後は親や産科・小児科の医療従事者、市町村など関係者のネットワークづくりを進め、神奈川ならではの『リトルベビーハンドブック』が作成されます。



依存症の対策強化を

公明党県議団では、これまでコロナ禍における依存症対策を重要な政策課題と捉え、県議会において多くの提言を行ってきました。

依存症は、誰でもなる可能性があり、また、回復には長い期間を要することから、依存症について理解を広めることが重要です。また、依存症の回復には、周囲の理解が必要であることから、社会全体で依存症に対する理解を深め、本人やご家族が安心して早期に適切な

支援につながる環境づくりも必要です。

そこで、代表質問において、依存症の正しい知識の普及啓発を強化するよう求めました。

これに対し、知事は「県では、現在の多くの県民の皆様にも、依存症について関心をもっていただくよう、アニメーションによる啓発動画を作成し、ネット配信や交通広告等を活用し、広く周知していく」と答弁。

また、「脳が発達段階にある未成年者は、依存症になりやすいため、現在、県教育委員会や関係機関の協力を得て、ゲーム依存症についての啓発漫画や動画を作成する。この動画等については、学校での活用を呼び掛けるほか、保護者への周知やネット配信も行っていく」と述べました。

さらに、「こうしたことにより、今後も、誰もが依存症について正しく理解し、早期発見、早期治療、回復支援につながりやすい環境づくりを、しっかりと進めていく」との考えを示しました。



Profile

谷口 和史 プロフィール

1962年 和歌山県海南市生まれ
1981年 和歌山県立海南高校卒業
1983年 大阪外語専門学校卒業
1988年 創価大学文学部社会学科卒業（在学中にアリゾナ大学に留学）
1989年 ロイター通信社入社（経済記者・ロイターテレビ日本語副編集長を歴任）
2005年 衆院選初当選（比例区・南関東ブロック）
2006年 総務大臣政務官
2008年 国土交通大臣政務官
2011年 神奈川県議選初当選（大和市選挙区）
2015年 神奈川県議選2期目当選
2019年 神奈川県議選3期目当選

県議会

厚生常任委員会

党役職

公明党 神奈川県本部 幹事長

県議会控室

〒231-8588 横浜市中区日本大通1
神奈川県議会公明党控室

TEL: 045-210-7630
FAX: 045-210-8912

QRコードで

LINE

お友達登録



●LINE
ID: kazoo1962

●ブログ
<https://blog.goo.ne.jp/kazufumi-taniguchi>

●facebook
<https://www.facebook.com/kazufumi.taniguchi>

●ツイッター
https://twitter.com/kazu_taniguchi

●谷口かずふみ 県政報告サイト
<https://www.kazufumi-taniguchi.com>